

道で結ぶ祝祭

―チェコ・モラヴィアの生活文化形成―

松 平 誠

はじめに

第一部 道で結ぶ祝祭文化を時間軸でみる

- 一 ソコル団―「スロヴァーツコの年」前史(一)
- 二 キヨヴスコのソコル団―「スロヴァーツコの年」前史(二)
- 三 民俗復興運動の村むら―「スロヴァーツコの年」前史(三)
- 四 初期のプログラム―「祝祭の木」と「王様の騎馬行列」
- 五 戦間期のキヨヴスコ・ソコル団活動と「スロヴァーツコの年」
- 六 暗黒時代のソコル団とアンサンブルの成立
- 七 ストラージュニツェ祭典とキヨヴスコ
- 八 「スロヴァーツコの年」の復活

論文要旨

本稿は、チェコ共和国のなかで、もともと民俗的な芸能がさかんだといわれるモラヴィア地方の祝祭を、地域の社会集団を道で繋いだ生活文化の表象としてとらえ、その歴史的過程と社会的な構成とを考察しようとするものである。本稿で研究対象としたのは、チェコ共和国南モラヴィア地方のスロヴァーツコ地域にある、「キヨヴスコ」(Kjovsko)の中心都市キヨフで夏におこなわれる祝祭、「スロヴァーツコの年」(Slovacký Rok)である。キヨヴスコでは、北四分の一を山地が占めて、北への道を遮っている。また、南四分の三を占める平地が郡境を越えて東西に広がり、南端でまた山地を遮っている。そして、この地の住民は、南北山地の間の東西に広がる平地に、キヨフを起点とする道のネットワークをつくり出し、独自の生活と文化とを形成してきた。「スロヴァーツコの年」の歴史的経過は、こうした自然環境のなかで、

二〇 習俗保存への関心―一九七〇～一九八〇年代の祝祭

二一 一九八七年祝祭―村むらの役割

第二部 道で繋ぐキヨヴスコの祭―一九九一年「スロヴァーツコの年」

一 ビロード革命期のキヨヴスコ・ソコル団と一九九一年の祝祭

二 一九九一年度の「祝祭の木」―プロコヴァニ村の役割

三 一九九一年のスロヴァーツコ・アンサンブル

四 多彩な音楽舞踊の集団と衣装パレード

五 「王様の騎馬行列」行事―スコロニツェ村

六 まとめ

キヨヴスコの村むらがその時代の社会環境を克服してきた民俗復興運動と民俗芸能創成の軌跡なのである。

四年ごとに開催されるこの祭は、一八世紀にはじまるナシヨナリズムの循環として、キヨヴスコに起こったソコル運動に端を発している。それは、キヨフを中心とし、相互に道で繋がる村むらによって運営され、キヨヴスコに伝わる古い民俗生活をここで再現し、その豊かな伝承技術や習俗を顕示し、それを通じて地域の人びとの社会的な結合と自覚とを高めてきた。

ビロード革命によるチェコスロバキア連邦共和国誕生直後の一九九一年度「スロヴァーツコの年」は、キヨフと放射線上の道で結ばれるキヨヴスコ二四の町村と、その延長上にあるスロヴァーツコ九町村とが繰り広げるナシヨナルな文化祭典として開花している。